『増補 俳諧歳時記栞草』所引漢籍考

植　木　久　行

江戸時代の享和３年（1803）、 曲亭（滝沢）馬琴が編纂した解説つき季寄、『俳諧歳時記』が刊行された。この48年後、幕末の嘉永４年（1851）には、藍亭青藍（せいらん）がこれを大幅に増補改訂して、俳諧季寄『増補俳諧歳時記栞草（しおりぐさ）』を刊行した。(注１) この『栞草』は、解説の充実と検索の簡便さ（いろは順）から江湖の支持を受け、明治・大正期、繰り返し活字版が刊行されている。(注２) 近年では古川久校訂『増補俳諧歳時記栞草』（八坂書房、生活の古典双書９・10、1973年、２冊）、さらには堀切実校注『増補俳諧歳時記栞草』（岩波書店、岩波文庫、2000年、２冊）がある。特に後者には、懇切な脚注が初めて付され、本書の内容を理解する多大の便宜を与えている。『栞草』に引く多くの漢籍に対しても脚注の中で言及され、さらに上冊の終わりに付す「出典一覧」のなかの［漢籍の部］には、漢籍目録等を駆使した調査結果が記されている。ただこうした典拠の漢籍調査は、可能な限り実物に当たらないと、その略称・通称・同名に惑わされて誤解を生じがちである。

本稿は堀切実校注本の成果を参照しつつ、幕末に成る代表的な近世歳時記『栞草』に引かれて季語・季題の解説に用いられた漢籍の実態を考察するものである。なお青藍が増補した解説中の漢籍は、じつは青藍みずから調査したのではなく、ほとんどみな天明３年（1783）に刊行された三余斎麁（そ）文撰（ぶん）『華実年浪草（かじつとしなみぐさ）』（詳細な考証解説附き季寄、約2,760の季語を収録）に基づいている。この点は、すでに井本農一『季語の研究』「第二章　俳諧歳時記の発達」のなかで、『華実年浪草』は「俳諧歳時記の権威書として尊重され、後世の季寄に大なる影響を与えた。『俳諧歳時記栞草』などの注解などもそのまま本書を使っているところが多い」と指摘されている。(注３) ただ本稿では、近世俳諧歳時記の季語・季題の解説に用いられた漢籍の状況を具体的に把握するために、しばらくこの点は不問に付しておきたい。なお『栞草』に用いられた漢籍の篇名、引用文の誤字・脱字・誤読等についての詳細な指摘については、後日発表する別稿に譲りたい。

【注】

（１）　青藍の増補改訂の状況については、服部仁「『俳諧歳時記』と『増補俳諧歳時記栞草』」（宮本三郎原編『俳文学論集』笠間書院、1981年）に詳しい。それによれば、季語を四季別いろは順に改編して月順に排列し、季語2,629語を3,467語へと増加し、解説・例句にも増訂が加えられて、面目を一

新させた。増加した語が321、減少した語が125。増加した大半は、動植物を中心とした自然を表す語であり、減少したものは、江戸に密着したり、馬琴の見聞に基づく語、異名・類称の類である。各語の注も改訂・増補したところが少なくない。本書が『華実年浪草』に多く拠っていることは、『年浪草』の名が『栞草』の所々で明記されていることからも明らかであるが、『栞草』のもとになった『俳諧歳時記』のなかには、『年浪草』の名は見いだせない、と。

（２） 堀切実校注『増補俳諧歳時記栞草』下冊の「解説」に詳しい。

（３） 古川書房、1981年。なお『華実年浪草』に引く漢籍は、詳密な考証風歳時記、四時堂其諺『滑稽雑談』（正徳３年［1713］序）に基づく所がある。神田正行「『俳諧歳時記』の成立」（慶應義塾大学『藝文研究』71号、1996年）によれば、すでに馬琴の『俳諧歳時記』の記述が、『華実年浪草』を基にして自分の興味ある事象を補う、といった様相を呈していた。これは馬琴が基にした『雪硴筆乗』（風月堂文篁［吉岡定八郎］の季寄）の大部分が、『華実年浪草』からの引き写しであったためらしい、と。ただし馬琴の『俳諧歳時記』自体は、漢籍の詩文を引くことは少ない。

『栞草』所引漢籍考（時代順）

【凡　例】

１，成立年代未詳な書物が多く、時代順はおおまかである。また同種の書籍の一部は、まとめて記した。

２，書物の巻数は流布する過程で異同が生じる。巻数の記述は参考程度に見てほしい。

３，具体的に挙げられた書名（書物中に引かれた書名を含む）を中心として収録し、単に「陶潜詩」「呉都賦」という類は、取りあげていない。この点は別稿で言及する。また未詳のもの若干は省略してある。

４，朝鮮撰述の書を２部挙げている。

５，『隋志』は『隋書』経籍志、『旧唐志』は『旧唐書』経籍志、『新唐志』は『新唐書』芸文志の略である。

６，和刻本は一部についてのみ言及した。

漢代以前

●『楚辞』後漢・王逸編注（楚辞章句）。戦国・楚の屈原（前339 ？～前278 ？）と後継者たちの歌辞を集める。17巻。『楚詞』とも書く。

●『呂氏春秋』秦（戦国末）呂不韋（？～前235）撰。後漢・高誘注。『呂覧』ともいう。先秦の諸学説に関する一種の百科全書。時令の完備した形が「十二紀」（各首篇）に見える。

●『周易』撰者不詳。占筮の書であるとともに、万物の変化と倫理の関係を説く処世哲学の書。経（本文）と伝（解説）から成る。伝は十翼ともいい、孔子（名は丘、前552～前479）の作と伝える。成立年代未詳。10巻。『易』『易経』ともいう。儒家の聖典、五経の一。

●『周易正義』魏の王弼（226～249）・晋の韓康伯注、唐・孔穎達（574～648）の疏。10巻。

●『周易本義通釈』元・胡炳文（1250～1333）撰。南宋・朱熹撰『周易本義』によりつつ、折衷是正し、諸家の説も採用した注釈書。12巻。『易本義』ともいう。

●『尚書』撰者不詳。堯・舜以来の聖人たちの、政治発言に関する記録。古くは『書』、漢代には『尚書』（尚は上・古の意）と呼ばれ、宋代以降、『書経』という。五経の一。現行本のうち、33篇が古く、他の25篇は魏晋間の偽作・付加とされる。漢・孔安国の伝（注の意）も、25篇の偽篇を付加した人（名は未詳）が同時に偽作したものという。

●『尚書正義』（尚書注疏）前漢・孔安国の伝、唐・孔穎達の疏。疏とは、古注を詳細に敷衍した注釈をいう。20巻。

●『書集伝』南宋・蔡沈（字仲黙、1167～1230、朱熹の弟子）撰。明初、『五経大全』編集の際に採用され、新注における正注となる。6巻。

●『尚書大伝』秦・前漢の伏勝撰。3巻。後漢・鄭玄（字康成、127～200）注（4巻）。伏勝の弟子たちが師の遺説を編録したものとされ、『尚書』をもとに発展させた思索を記す。

●『詩経』春秋・孔子撰（刪定）と伝える。西周初期から春秋中期（前12世紀～前6世紀）に到る500年間の305篇を収めた、中国最古の詩集。五経の一。先秦時代には単に『詩』と呼ばれ、後漢時代になって、一般に『毛詩』と呼ばれるようになった。これは前漢の毛亨らによって伝えられたという『毛詩』だけが、伝存する『詩』の唯一のテキストになったからである。

●『毛詩』（毛詩鄭箋）前漢・毛亨の伝、後漢・鄭玄の箋（再注釈）。20巻。ちなみに毛伝（毛氏伝）の作成者は、毛亨・毛萇の2説がある。2人の学者は河間献王劉徳の時代（前2世紀）に活躍したという。

●『毛詩注疏』前漢・毛亨の伝、後漢・鄭玄の箋。唐・孔穎達の疏。20巻。

●『詩集伝』南宋・朱熹（字元晦［仲晦］、号晦庵、1130～1200）撰。『毛詩』（毛詩鄭箋）の各詩篇の冒頭に置かれた「詩序」（作成状況を記す）を取り除いて、詩の原意を再考した注釈書。8巻。

●『韓詩外伝』前漢・韓嬰撰。雑多な故事古言を引いて『詩』（詩経）の句の意味内容を解説した書。10巻。韓嬰は、前漢の三家詩の一派である韓詩を伝えた学者。

●『春秋左氏伝』春秋・左丘明撰と伝える。五経の一つ、『春秋』（魯国の編年体の史書、孔子撰とされる）の注釈書で、いわゆる春秋三伝の一。『左伝』と略称する。

●『春秋左氏伝正義』（春秋左伝注疏）西晋・杜預（222～284）の集解、唐・孔穎達の疏、60巻。五経正義の一。

●『春秋緯』撰者不詳。漢代、『春秋』に付会して作られた緯書（陰陽五行、災異瑞祥、天人相感などの諸説によって経書を解釈した書）。『隋志』経部讖緯の条に、三国魏・宋均注の30巻（亡）を著録する。（『新旧唐志』は38巻）散佚。感精符、元命苞（包）、運斗枢、演孔図などの諸篇がある。

●『周礼』周公旦撰と伝える。天地春夏秋冬によって政府の官僚機構を説明した書。当初、『周官』と呼ばれていたが、後漢末の鄭玄が経書を統括するものとして、『周礼』の名を定着させた。冬官の

部は早く滅び、種々の工人の職掌を記入した考工記が編入された。12巻。儒家の経書。

●『周礼注疏』後漢・鄭玄の注、唐・賈公彦の疏。42巻。鄭玄注のなかには、後漢・鄭衆の説（『周礼解詁』）が「鄭司農云」として引かれている。

●『周官新義』北宋・王安石（1021～1086）撰。『周礼』に関する宋代の注釈書。もと22巻。散佚。輯本は16巻。

●『大戴礼』前漢・戴徳撰。礼に関する諸説を集めた85篇、13巻。のち甥の戴聖撰『小戴礼』（礼記）が広く流布して衰微し、35篇のみ伝わる。その中の一篇を独立させた『夏小正』（先秦時期の農家暦書）も伝わる。

●『礼記』前漢の戴聖撰。『礼経』（＝『儀礼』）に対して加えられたノート（注記）の意。『大戴礼』を刪った書ともされるが、古記から独自に採録して編纂したものらしい。「月令篇」「王制篇」などを引く。重要な経書。現行本は49篇。

●『礼記正義』（礼記注疏）後漢・鄭玄の注、唐・孔穎達の疏。五経正義の一。

●『礼記集説』元・陳澔撰。明初、『五経大全』編集の際に採用され、新注における正注となる。『栞草』も頻繁に引く。

●『孝経緯』撰者不詳。漢代の人が『孝経』に付会して作った緯書。魏・宋均注。５巻（『新唐志』）。周天七衡六間（周天玉衡六問）、援神契、勾命決などの篇がある。散佚。また単行本になったものとして、『隋志』経部讖緯の条には、●『孝経勾命決』（６巻、宋均注）、●『孝経援神契』（７巻、宋均注）、●『孝経元命包』（１巻、亡）などを著録する。

●『爾雅』撰者未詳。古訓を集めた訓詁の書。戦国時代から漢初にかけて増補された（前漢の成立）。３巻など。東晋・郭璞（276～324）の注（『爾雅注』５巻）が伝わる。後漢・李巡や三国魏・孫炎（鄭玄の門人）らの注は散佚した。

●『爾雅注疏』東晋・郭璞の注、北宋・邢昺（932～1010）の疏。11巻。

●『史記』前漢・司馬遷（前145～前86？）撰。伝説時代から前漢の武帝の時代に到る紀伝体の歴史書。もと『太史公書』という。正史の最初。130巻。主な注釈書に南朝宋・裴駰『集解』（史記集解）、唐・司馬貞の『索隠』（史記索隠）、唐・張守節の『正義』（史記正義）がある。

●『漢書』後漢・班固（32～92）ら撰。前漢（および新の時代）を記す断代史。『前漢書』ともいう。正史の第２。120巻。 唐・顔師固（581～645）注。「郊祀志」「律暦（歴）志」「礼儀志」などを引く。

●『急就章』前漢・史游撰。約1,950字を収める初学者用の識字・書法教科書。『急就篇』ともいう。前漢の元帝の時（前48～33在位）に成る？　現存本は４巻。唐・顔師固注。宋・王応麟補注。

●『説文解字』後漢・許慎（30～124）撰。永元12年（100）の序。漢字を字形によって分類排列し、字義を解説した最初の字書。『説文』（『隋志』経部小学）ともいう。15巻、30巻。

北宋・徐鉉（917～992）が勅命を受けて、句中正らと校訂した『説文解字』15巻本（雍熙３年［986］に成る）。この大徐本が『説文解字』を論ずる際の基礎となる。各部の末に列挙された新附字も、徐鉉（大徐）の仕事である。それ以外は、基本的に許慎当時のままとされる。

●『説文解字繫伝』南唐・徐鍇（921～974）撰。40巻（巻25は散佚）。『説文解字』の注解書。『説文解字』の説解の後の部分が、徐鍇（小徐）の「伝」（解説）である。

●『釈名』後漢末・劉熙（字成国）撰。語源探求書。８巻。劉熙は、後漢末から三国魏にかけて声望の高き学者。

●『月令章句』後漢末・蔡邕（字伯喈、133～192）撰。12巻。散佚。隋・杜台卿撰『玉燭宝典』や唐代の『初学記』などに引かれる。

●『独断』後漢末・蔡邕撰。漢代の制度・事物を解説した書。１巻、２巻。寛文９年（1669）の和刻本あり。

●『琴操』後漢末・蔡邕撰？　琴曲に対する解説書。２巻。天保３年（1832）の和刻本あり。同名の西晋・孔衍（268～320）撰（３巻）もあった。

●『白虎通』後漢・班固（32～92）ら撰。後漢・章帝の建初４年（79）、儒臣が白虎観で五経の疑義を討論した際の記録を整理・編集した書。『白虎通徳論』『白虎通義』ともいう。６巻、10巻。

●『五経通義』前漢末・劉向（本名は更生、字は子政、前77～前６）撰とされる。８巻、９巻。散佚。

●『説苑』前漢末・劉向撰。春秋戦国から漢代に到る史話を分類して編述し、論説をまじえた故事説話集。20巻。

●『列仙伝』前漢末・劉向撰とされる。赤松子ら71人の仙人を叙述する。２巻。

●『神異経』前漢・東方朔（前154～前93）撰、西晋・張華（232～300）注と伝える（『隋志』史部地理）が、偽託である。『漢書』芸文志に未著録。後漢ごろの作か。１巻。散佚。『神異記』『神異録』ともいう。貞享５年（1688）の和刻本あり。

●『東方朔占書』撰者未詳。前漢の東方朔に仮託された占書であろう。１巻、３巻。『隋志』子部五行の条には、『東方朔占』とする。

●『国語』春秋・左丘明撰と伝える。春秋時代の列国の歴史を記す。三国呉・韋昭（204？～273）の注。22巻など。『春秋外伝国語』ともいう。

●『風俗通義』後漢末・応劭（字仲遠）撰。事物の名称を検討し、俗説を正した書。もと32巻（30巻）、現存本は10巻。『風俗通』ともいう。万治３年（1660）の和刻本あり。

●『漢武内伝』撰者未詳。後漢・班固撰とも伝えるが、六朝期の偽託。武帝の誕生・求仙・埋葬等を記し、神仙怪異の記事に富む。１巻。平安初期の藤原佐世撰『日本国見在書目録』20、雑伝家には２巻、葛洪撰を著録する。『漢武帝伝』『漢武帝内伝』ともいう。延享４年（1747）の和刻本あり。

●『淮南子』前漢・淮南王劉安（前179～前122）撰、21巻（外篇散佚、内篇のみ）。後漢・高誘の注。許慎の注もあったが、すでに散佚し、現行の高誘注のなかに混入しているとされる。注釈を施した高誘の序言にもとづき、本文と注を合して『淮南鴻烈解』（鴻は大、烈は明の意）とも呼ばれる。元狩３年（前120）ごろの成立。道家思想を中心とする諸学派の説を集成する。

●『淮南王万畢術』前漢・劉安撰。諸学者を集めて、自然科学的な神仙変化の術を論じた道家の雑著。簡称は『万畢術』。１巻。散佚。『隋志』子部五行の条には『淮南万畢経』とする。

●『董子』戦国・董無心撰。『隋志』子部儒家の条に１巻を著録。墨子を難じた書らしい。散佚。
●『山海経』撰者未詳。各地の山々に住む空想的な動物や神々、そこに産する植物や鉱物などを列挙した古代の地理書。秦漢時代の成立。現存本は東晋の郭璞注18巻本である。五蔵山経、海外四経、海内四経、大荒四経、海内経の５部から成る。
●『列子』戦国・列禦寇（荘周以前の人）撰とされるが、魏晋間の偽託。門人や後人の増補を含む、道家の思想書。東晋・張湛注。８巻。
●『荘子』戦国・荘周（前370 ？～前300 ？）撰とされる。戦国中期から漢初にいたる道家思想を伝える書。西晋・郭象注など。20巻。10巻。現行本は33篇から成る。
　●『荘子鬳斎口義』南宋・林希逸（字粛翁、号鬳斎）撰。『荘子』の注釈書。10巻。寛永６年（1629）などの和刻本あり。
●『荀子』戦国末期・荀況（前313 ？～前238 ？）撰。礼の重視と性悪説を説く思想書。もと12巻。現行本は20巻。古くは『荀卿子』『孫卿子』という。荀卿は荀況の尊称。前漢の宣帝劉詢の諱を避けて孫卿ともいう。
●『蜀王本紀』前漢末・揚雄（字子雲、前53～18）撰。蜀の開国から秦代に至る蜀王に関する史書（記録）。１巻。散佚。
●『孔叢子』前漢（秦漢間）・孔鮒撰（？～前208、孔子の八世孫）とされるが、諸説あり。孔子や孫の子思（名伋）らの言行を集めて21篇とし、巻末に孔臧（前漢の人。孔子の後裔）の詩文や記録を載せた連叢子上下２篇を加えた書。もと７巻。現行本は３巻。『孔叢』ともいう。
●『黄帝内経素問』撰者不詳。鍼灸医学の書。中国医学第一の古典。『内経』『黄帝内経』ともいう。『漢書』芸文志、方技略・医経の条に著録する『黄帝内経』18巻は、『素問』９巻と『霊枢』（鍼経に相当）９巻から成るとされる。現行の『黄帝内経素問』は、南朝梁（隋）・全元起注本を再編集した唐・王冰が次注を施した『黄帝素問』24巻（763年ごろ）に基づいて、北宋の仁宗のとき（1056～63）、林億らが校訂補注した『重広補注黄帝内経素問』（唐王冰注、宋林億等奉勅校正）24巻である。ちなみにその中の運気七篇は、王冰の増補とされる。
●『神農本草』撰者未詳。薬性・薬効の記述を主体とした最古・最初の薬物学書。２世紀後半、後漢時代の成立。魏晋期、『神農経』『神農四経』などと呼ばれ、『神農本草経』『神農本経』ともいう。８巻、４巻、３巻。ちなみに、李時珍撰『本草綱目』にいう『本経』『神農本草経』は、本書を指す。

六　朝

●『後漢書』南朝宋・范曄（398～445、字蔚宗）撰。後漢時代を記す断代史。90巻（紀10巻・列伝80巻）。唐・章懐太子李賢注。通行本は『続漢書』志30巻を附す。これは、南朝梁・劉昭が范曄撰『後漢書』に注釈を施したとき、欠けていた志（種々の専門事項の記録）に西晋・司馬彪（字紹統、？～306）撰『続漢書』（後漢時代の歴史書）中の志をあて、これにも注釈を加えて、史書の体裁を整えたことに由来する。北宋時代、范曄撰・李賢注『後漢書』90巻と司馬彪撰・劉昭注『続漢書』志30巻が

合刻されて、現行本『後漢書』120巻の形態が完成した。

●『続漢書』西晋・司馬彪撰。後漢の歴史書。83巻。現行本『後漢書』のなかに収める８志30巻のみが残存する。

●『宋書』南朝梁・沈約（441～513）撰。南朝宋の史書。正史の一。本紀・列伝は南斉永明６年（488）に成り、志はやや遅れて成立。正史の一。100巻。

●『広雅』三国魏・張揖（ゆう）撰。『爾雅』未載の字を収めた訓詁の書。太和年間（227～232）に成る。隋・煬帝の諱を避けて『博雅』とも呼ばれた。もと３巻。隋・曹憲が音釈を付したとき、10巻とする。

●『字林』西晋・呂忱（りょしん）（字伯雍）撰。許慎撰『説文解字』の欠漏を補うために、広く典籍を捜求して作成した字書。初めて反切を用いる。７巻。西晋の武帝（265～290年在位）のころに成る。

●『文字集略』南朝梁・阮孝緒（字士宗、479～536）撰。６巻、１巻。字書。散佚。阮孝緒は、『隋志』の注に引く梁代の書籍目録『七録』12巻を撰した人。

●『臨海水土異物志』三国呉・沈瑩（しんえい）（？～280）撰。臨海は郡名、浙江省南部海岸一帯を指す。最古の地方志の一つ。『臨海水土物志』『臨海水土志』『異物志』などともいう。１巻。輯本あり。

●『毛詩草木鳥獣虫魚疏』三国・呉の陸璣（字元恪（げんかく））撰。２巻。陸璣は呉郡（江蘇省）の人。呉の太子中庶子、烏程の令になった。璣は「機」にも作るが、璣が正しい。『毛詩草木虫魚疏』ともいう（『隋志』経部・詩）。原本は散佚。現行２巻本は再編の輯本。元禄11年（1698）の和刻本あり。

●『風土記』呉末・西晋の周処（238～297）撰。自分の郷土、江南の陽羨（江蘇省宜興市）の地理書。歳時習俗資料に富む。呉末（265～280）ごろに成る。

●『古今注』西晋・崔豹（さいひょう）撰。古代の事物や制度の解説書。３巻。現行本は、かつて五代・馬縞（ばこう）撰『中華古今注』３巻本を摘録した偽書とされたが、じつは唐以前の旧態をかなり残す。寛延２年（1726）の和刻本あり。

●『南方草木状』西晋・嵇含（けいがん）（263～306）撰。広州（広東省）太守在任時の見聞を記した書。４世紀初めの成立。唐宋の間に残欠し、現行本は南宋のとき、他書を取って補綴したものという。３巻。享保11年（1726）の和刻本あり。

●『博物志』西晋・張華（232～300）撰。さまざまな異物・奇境・殊俗・異聞などを分類記載する。10巻。現行本は後人の輯本である。

●『物理論』西晋・楊泉（字徳淵）撰。16巻。散佚。宋代の『太平御覧』や清・陳元龍撰『格致鏡原』（『事物紀原』に倣って編纂した類書）などに引かれる。『楊子物理論』ともいう。

●『西京雑記』東晋・葛洪（かつこう）（283～363）撰とされる。前漢の都長安の記録。もと２巻、のち６巻。一説に前漢の劉歆（きん）撰、東晋の葛洪録ともいう。元禄３年（1690）の和刻本あり。

●『抱朴子』東晋の葛洪撰。神仙道教の書。内篇20巻、外篇50巻から成る。葛洪は自ら抱朴子と号し、干宝とも交遊。建武元年（317）ごろに成る。

●『搜神記』東晋・干宝（字令升　？～336）撰。多種多彩な志怪小説集。もと30巻。現行本は20巻。元禄12年（1699）の和刻本あり。

●『広州記』晋・裴淵撰。広州（広東省）の地方志。２巻。李時珍撰『本草綱目』序例「引拠古今経史百家書目」による。

●『鄴中記』晋（西晋・東晋間）・陸翽撰。鄴（河北省）は、三国魏・後趙・冉魏・前燕・東魏・北斉の都。後趙の石虎の時代の宮殿・庭園や、彼の事跡を中心に記す。もと２巻。散佚。輯本は１巻。

●『広志』晋（以後）・郭義恭撰。西晋・張華撰『博物志』を増補した書。２巻。散佚。

●『竹譜』南朝宋・戴凱之（字慶預）撰。もと晋の人に誤る。１巻。

●『南越志』南朝宋・沈懐遠撰。８巻、５巻。散佚。広州（広東省）に左遷されていた時に作る。『類説』『重較説郛』などに所収。

●『世説新語』南朝宋・劉義慶（403～444）撰。後漢末期から南朝宋の初期に到る名士たちの逸話や人物批評などを、36門に分類集録した志人小説集。もと８巻。梁・劉孝標注（10巻）。現行本は３巻。原名は『世説』。唐代、『世説新書』、宋代以降、『世説新語』と呼ばれた。

●『世説新語補』明・王世貞（字元美、1526～1590）撰と伝える。劉義慶撰『世説新語』と明・何良俊（1506～1573）撰『何氏語林』（30巻）を基に編集した書。20巻。王世貞の名は刊刻者の仮託か。江戸時代に流布したのは、この『世説新語補』である。秦鼎『世説箋本』などあり。

●『女儀』北魏・崔浩（？～450）撰。巻数未詳。南宋末・陳元靚撰『歳時広記』巻38などに引かれる。

●『続斉諧記』南朝梁・呉均（469～520）撰。歳時資料に富む。１巻、３巻。

●『文選』梁・昭明太子蕭統（501～531）撰。526～531年ごろの成立。もと30巻。唐の李善注本は60巻。東周から梁に至る一千年間にわたる詩文選集。約800篇を収録。

●『梁元帝纂要』南朝梁・元帝（蕭繹、508～554）撰。季節の語彙に富み、唐代の類書『初学記』などに引かれる。『纂要』ともいう。散佚。巻数未詳。

●『荊楚歳時記』南朝梁・宗懍（502？－565？）撰、１巻。もと『荊楚記』（555年ごろ？に成る）と題したが、隋の杜公瞻が補注を加えて、『荊楚歳時記』（大業年間［605－617］ごろに成る）と改名した。年中行事を伝える現存最古の書。杜公瞻は『玉燭宝典』の撰者杜台卿の兄の子。元文２年（1737）の和刻本あり。

●『李氏薬録』三国魏・李当之（李譫之）撰。６巻。李当之は、後漢末～三国魏の名医・華陀の弟子。

●『呉普本草』三国魏・呉普撰。８種以上の本草書を引く。６巻。呉普も華陀の弟子。『呉氏本草因』ともいう。散佚。『本草綱目』等に引く。

●『名医別録』撰者不詳。後漢以来の名医の諸説を集めた医書。３巻。３～４世紀の成立。単に『別録』とも言う。ちなみに『隋志』子部医方の条には陶弘景撰という。

●『神農本草経集注』南朝梁・陶弘景（字は通明、456～536）撰。７巻。『名医別録』から365種の薬品と解説を選んで、『神農本経』（撰者不詳）４巻を補足し、『神農本草経』上中下３巻を編纂した。南朝・斉末の永元２年（500）以前の成立。続いて陶弘景は、それに注解を加えた『神農本草経集注』７巻を作る。本書は『本草経集注』『集注本草』とも呼ばれて、これが後世の本草書の原型（出発点）となる。ちなみに、明の李時珍撰『本草綱目』序例・歴代諸家本草の条にいう、「神農本草の薬は三

品に分かち、計三百六十五種。…　梁の陶弘景、復た漢魏以下、名医の用いる所の薬365種を増し、これを名医別録と謂う。凡て７巻」という。李時珍は『神農本草経集注』と『名医別録』を混同する。ちなみに陶弘景の名は、唐・高宗の太子弘の諱を避けて陶景と略称されたときもある。陶弘景は自ら華陽隠居と号し、茅山派（上清派）道教の教義の基礎を確立した道士。

●『食経』六朝？崔禹錫撰。『隋志』子部医方の条に著録する「崔氏食経四巻」、『日本国見在書目録』37、医方家の条に著録する「食経　四［巻］　崔禹錫撰」のことであろう。散逸。『茱萸』に引くものは、すべて平安中期・源順撰『和名類聚抄』（20巻本）に拠る。

●『仏説温室洗浴衆僧経』後漢・安世高訳。温室（蒸し風呂）で洗浴する功徳を説く。１巻。『温室経』『温室洗浴衆僧経』ともいう。

●『無量寿経』三国魏・康僧鎧訳と伝える。隋唐以前の浄土教の根本教典の一つ。『双巻経』『大無量寿経』『大経』ともいう。浄土三部経の一つ。２巻。

●『仏説盂蘭盆経』西晋・竺法護（239～316）訳。餓鬼道に落ちている亡母を救おうとする目連尊者の故事を中心に記す。１巻。『盂蘭盆経』『盂蘭経』ともいう。

●『妙法蓮華経』後秦・鳩摩羅什（350～409）訳。８巻。大乗仏教の重要な経典の一つ。永遠の生命そのものとしての仏陀をたたえる。『法華経』ともいう。

●『大般涅槃経』北涼・曇無讖（385～433）訳。釈迦入滅の意義を明らかにし、法身の常住や仏性の普遍性などを説く。40巻。『涅槃経』『大涅槃経』などともいう。

●『提謂波利経』北魏・曇靖撰。５世紀半ば過ぎ、北魏太武帝の廃仏の後に作られた経典。斎戒修善を強調する。２巻。散佚。『提謂経』ともいう。

●『仏説浄土三昧経』北魏・曇曜撰。『提謂波利経』と同時代の撰述（あるいは彼に仮託された疑経）。曇曜は北魏の国家事業として雲岡石窟の開鑿を推進した人。

隋・唐

●『玉燭宝典』隋・杜台卿撰。六朝末までの歳時関係資料の一大集成。12巻（１巻欠）。開皇初年（581）、隋の文帝に献上された。中国では散佚。日本の公的年中行事の根幹を形成した基本資料。

●『古今芸術図』隋・煬帝撰。撰者不詳『古今芸術』（20巻、『隋志』子部小説家の条に著録）に図を加えたものらしい。50巻。唐・張彦遠撰『歴代名画記』巻３「述古之秘画珍図」の条参照,

●『隋書』初唐・魏徴、長孫無忌ら奉勅撰。隋朝38年間の断代史。顕慶元年（656）に成る。正史の一。85巻。

●『晋書』初唐・房玄齢・李延寿ら奉勅撰。正史の一。晋（西晋４代54年・東晋11代102年）の断代史。貞観18年（644）成立。130巻。

●『北史』初唐・李延寿撰。北朝の北魏・北斉・北周・隋の通史。顕慶４年（659）に成る。100巻。

●『大唐西域記』唐・玄奘述、弁機撰。西域・インドの旅行記・地誌。初唐の貞観20年（646）に成る。12巻。『西域記』と略称される。

●『唐韻』盛唐・孫愐撰。玄宗の天宝10載（751）序。切韻系韻書（詩文作成に際しての韻律を整えるための規範書）。５巻。『栞草』に引くものは、平安中期・源順撰『和名類聚抄』（20巻本）に拠る。

●『釈氏切韻』唐・釈弘演撰。一説に弘演寺釈某の作ともいう。『日本国見在書目録』10，小学家に「切韻十巻　釈弘演撰」とある。散佚。源順撰『和名類聚抄』（20巻本）に引く。

●『芸文類聚』初唐・欧陽詢ら撰。唐初の武徳７年（624）に成る類書。天・歳時から災異に至る46部、細目は727項。各細目の初めに諸書の抜粋記事（事実）を並べ、その後に詩・賦・碑・論などの詩文を列挙する。以後の類書の体例となる。100巻。

●『初学記』盛唐・徐堅ら撰。玄宗の開元15年（727）に成る類書。30巻（23部、313目）。

●『大業拾遺録』唐初・杜宝撰。大業は隋の煬帝の年号（605～617）。杜宝には煬帝一代のことを記した『大業雑記』10巻（散佚、節録のみ）があり、本書はそれに遺たものを拾って記録した意であろう。１巻。『大業拾遺』『大業拾遺記』ともいう。『重較説郛』所収。李時珍撰『本草綱目』序例「引拠古今経史百家書目」による。ちなみに『太平御覧』等に引く『大業拾遺録』は、『大業雑記』の訛称とされる。

●『陰陽書』初唐・呂才撰。50巻（『旧唐志』五行）。散佚。

●『百花譜』唐・賈耽（730～805）撰。散佚。賈耽は徳宗貞元年間の宰相。南宋初・曾慥撰『類説』巻７に引く『海棠記』に、「唐の相賈耽　百花譜を著し…」とある。巻数未詳。

●『茶経』唐・陸羽撰。茶に関する最古の百科全書。上元元年（760）ごろの成立。３巻。

●『顧渚山茶記』唐・陸羽撰。顧渚山は湖州長興県（浙江省）の西北にある山の名。茶の名産地で、茶山とも呼ばれる。また顧山ともいう。１巻。

●『白氏文集』唐・白居易（772～846）撰。自撰の詩文集。71巻（もと75巻）。

●『韓文』唐・韓愈（768～824）撰。唐・李漢編。韓愈の詩文集。明・游居敬校。40巻、外集10巻、集伝１巻、遺集１巻。天保10年（1839）の和刻本（官版）あり。

●『劉賓客嘉話録』唐・韋絢（801～866以後、字文明）撰。長慶２年（822）、22歳のとき、夔州刺史劉禹錫に問学し、宣宗の大中10年（856）、56歳のとき、昔日の劉禹錫の語を整理して成る。１巻。『劉公嘉話録』『嘉話録』『劉公嘉話』などともいう。韋絢は順宗・憲宗両朝の宰相韋執宜の子、元稹の女婿である。散佚。輯本あり。

●『酉陽雑俎』晩唐・段成式（803？～863）撰。唐代社会のさまざまな話題・事物を分類収録する、資料豊富な筆記雑著（異聞集）。雑俎は、ごった煮の意。（前集）20巻。続集10巻。

●『蒙求』盛唐・李瀚撰・注。天宝５載（746）の成立。上古から南北朝時代に到る著名人の伝記や逸事を、四字句の韻語に織り込んだ児童用の教科書。３巻。宋・徐子光の補注本などがある。

●『北戸録』晩唐・段公路撰。嶺南の風土と産物の奇異を採録した書。３巻。

●『開元天宝遺事』唐末・五代の王仁裕撰。開元遺事１巻と天宝遺事２巻から成り、玄宗の開元・天宝年間における宮中の瑣聞・雑事を記す。２巻。寛永16年（1639）の和刻本あり。中国の類書には、『開元遺事』『天宝遺事』などとして引用される。

●『金門歳節記』撰者不詳（唐代の人）。東都洛陽を中心とした都市の年中行事を記す。『金門歳節』ともいう。散佚。

●『輦下歳時記』唐末の李綽撰。黄巣の乱後、蛮隅（南方の辺地）に避けて作る。長安の往時の繁華な都市生活・行事を記す。散佚。１巻。『重較説郛』所収。

●『四時宝鏡』撰者不詳（唐代後期の人）。四時は春夏秋冬の意。唐代の人の生活を描写する。宋・太祖の祖趙敬の諱を避けて『四時宝鑑』ともいう。１巻。『重較説郛』所収。

●『歳華紀麗』唐末・五代の韓鄂撰。歳時のみに限定した類書形式の、一種の歳時記。４巻。宝永４年（1707）跋の和刻本あり。

●『四時纂要』唐末・五代の韓鄂撰。占卜や歳時習俗に富む歳時型農書。唐末・五代初め（10世紀初め）に成る。５巻。

●『異聞集』唐末・陳翰撰。唐代の伝奇小説を収録する選集。10巻。原書は失われ、『類説』などに節略を収める。

●『禽経』周の楽師・師曠（字子野）撰、西晋・張華注と伝えるが、疑わしい。『隋志』に未著録。世界最古の鳥類の専著。初めて北宋・陸佃撰『埤雅』に引かれるという。おそらく唐宋時代の託名の作。南宋・左圭編の叢書『百川学海』所収。

●『新修本草』初唐・蘇敬（宋代、避諱のために蘇恭に作るので注意）ら奉勅撰。陶弘景『神農本草経集注』（集注本草）を増補して作る。顕慶４年（659）に成る、中国最初の勅撰本草書。俗称は『唐本草』。20巻、目録１巻、薬図25巻、図経７巻。合計54巻。薬図と図経は散佚。『本草綱目』等所引。

●『千金翼方』初唐・孫思邈撰。孫思邈が自著の医学全書『備急千金要方』（千金方、30巻）を補充編纂した続編。唐初の７世紀後半に成る。30巻。

●『斉人月令』初唐・孫思邈撰と伝える。斉人は平民（一般大衆）の意。孫思邈撰『千金月令』（飲食・医薬のことを月日を追って記した養生延命を教える書）の中から、後人が一般民衆に役立つ条項を選んで編纂したものらしい。１巻、２巻。散佚。

●『食療本草』盛唐・張鼎が初唐・孟詵（621～713）撰『補養方』（散佚）を補訂した書。３巻。ただし『新唐志』医術類には、「孟詵食療本草」３巻を著録する。

●『本草拾遺』盛唐・陳蔵器撰。『新修本草』の遺逸を集録する。開元２年（739）の刊行。10巻。明・李時珍撰『本草綱目』等所引。

●『重広英公本草』五代・後蜀（934～965）の韓保昇ら撰。20巻。英公本草とは、英国公李勣が総定となった『新修本草』を指す。その増補・刪定版。略称は『蜀本草』。10世紀半ばに成る。『本草綱目』等所引。

●『阿毘達磨倶舎論本頌』唐・玄奘（602～664）訳（世親菩薩造）。『阿毘達磨倶舎論』中の偈文のみを集めた書。永徽２年（651）ごろに成る。『倶舎論頌』『倶舎論本頌』ともいう。１巻。

●『仏説弥勒下生成仏経』唐・義浄（635～713）訳。大足元年（701）に成る。１巻。 通称は『弥勒成仏経』。義浄は唐代入竺した訳経家。

●『仏説譬喩経』唐・義浄訳。仏が勝光王のために説いた譬喩。景龍４年（710）に成る。１巻。略称は『譬喩経』。

●『観無量寿仏経疏』唐・善導（613～681）集記（撰）。浄土の教相や教義を明らかにした、『観無量寿経』の注解書。４巻。成立年代不詳。『観経疏』『四帖疏』などともいう。日本の浄土教の根本経典。

●『仏説校量数珠功徳経』唐・宝思惟（阿儞真那、？～721）訳。長安２年（702）に成る。１巻。『校量数珠功徳経』ともいう。

●『仏説浴像功徳経』唐・宝思惟訳。仏像を洗浴する方法と15種の功徳を説き、神龍元年（705）に成る。１巻。通称は『浴像功徳経』。

●『一切経音義』唐・慧琳（737～820）撰。貞観年間（627～649）に新たに漢訳された経・論と、玄応『一切経音義』に見えない経・論に対して、新たに撰述した音義の注釈書。『慧琳音義』『慧琳一切経音義』、『大唐衆経音義』、『大蔵音義』ともいう。建中４年（783）に着手し、元和２年（807）ごろに成る。玄応の『一切経音義』や慧苑の『華厳経音義』なども収録し、漢訳仏典の「音義」を集大成した書。100巻。

●『仏説盂蘭盆経疏』唐・宗密（号圭峰、780～841）撰。『仏説盂蘭盆経』の注釈書。２巻。『盂蘭盆経疏』ともいう。宗密は華厳宗の僧。

宋　代

●『新唐書』北宋・欧陽脩（1007～1072）・宋祁ら奉勅撰。唐朝の断代史。225巻。正史の一。本来、『唐書』という。『新唐書』は、五代に成る『唐書』（『旧唐書』）と区別するための通称。

●『太平広記』北宋・李昉（925～98）ら奉勅撰。唐以前の古小説の宝庫。広記は、古来の逸聞瑣事を広く記録する意。太平興国３年（978）に成る。500巻。太平興国６年、出版の命が下されたが、事業中止となる。南宋期に翻刻されたが、広く流布するのは明嘉靖45年（1566）、談愷刻本以降である。

●『太平御覧』北宋・李昉ら奉勅撰。大型の代表的な類書。太平興国８年（983）完成。1000巻。

●『事類賦』北宋・呉淑（947～1002）撰・注。一題一賦の形態を持つ類書。30巻。

●『洛陽牡丹記』北宋・欧陽脩撰。北宋の西京洛陽の名花牡丹の記録。１巻　。

●『景徳伝灯録』北宋・道原撰。禅宗史伝の傑作（中国禅宗史書）。景徳元年（1004）の成立。30巻。略称は『伝灯録』。

●『釈氏要覧』北宋・道誠撰。仏教関係の用語・制度の解説。天禧４年（1019）の成立。３巻。

●『大宋重修広韻』北宋の陳彭年・邱雍ら奉勅撰。切韻系韻書の代表。北宋の大中祥符元年（1008）刊行。５巻。通称は『広韻』。

●『増修互注礼部韻略』南宋初の毛晃・毛居正撰。毛晃が『礼部韻略』を増注して編纂し、紹興32年（1162）朝廷に献上した。その後、子の毛居正が校勘・増補した韻書。５巻。通称は『増韻』。

●『笋譜』北宋の賛寧（919～1001）撰。１巻。『竹譜』ともいう。賛寧は『宋高僧伝』や『物類相感志』を編纂した僧。

●『字説』北宋・王安石（1021～1086）撰。20巻。のち24巻となる。散佚。
●『埤雅』北宋・陸佃（1042～1102）撰。釈魚～釈天の８類に分けた訓詁の書。『爾雅』の補足版で、多く王安石の字説に基づくという。20巻。陸佃は王安石門下の新法党官僚。
●『爾雅翼』南宋初・羅願（1136～1184）撰。孝宗の淳熙元年（1174）に成る。釈草～釈魚の６類に分かれ、『埤雅』よりも優れている。32巻。元・洪焱祖音釈。
●『夢渓筆談』北宋・沈括（字存中、1031～1095）撰。26巻。『補筆談』３巻、『続筆談』１巻がある。考証随筆。沈括は王安石政権の主要閣僚の一人。
●『青箱雑記』北宋・呉処厚（字は伯固）撰。五代・北宋の朝野の雑事・詩話・故実（慣例）などを記す。10巻。呉処厚は皇祐５年（1053）の進士。
●『零陵記』北宋・陶岳撰。零陵（湖南省永州）の地理志。15巻。陶岳は『五代史補』の撰者。
●『国老談苑』北宋・王君玉撰？　２巻。１巻。もと『国老閑談』という。左圭編『百川学海』に収録するとき改名されたらしい。『直斎書録解題』巻11、小説家類には、『国老閑談』２巻を著録し、「夷門の君玉撰と称す。姓を著さず」という。
●『文昌雑録』北宋・龐元英撰。尚書省礼部主客郎中であった元豊５年（1082）から元豊８年までの見聞を記す。６巻、補遺１巻。
●『事物紀原』北宋・高承撰。天地間の事物の始まり（由来）を古書を引いて記載する。元豊年間（1078～1085）に成るが、現行本は増補されているらしい。10巻。『事原』ともいう。寛文４年（1664）の和刻本あり。
●『歳時雑記』北宋・呂希哲（字原明、政和年間［1111－17］没）。『直斎書録解題』巻６、時令類に２巻を著録する。『重較説郛』所収本は１巻。南宋末・陳元靚撰『歳時広記』に頻用される。
●『珊瑚鉤詩話』北宋末・張表臣（字正民）撰。詩の評論に一家言を持つ詩話。２巻、３巻。
●『宣和画譜』撰者不詳。北宋末の徽宗のとき、内府に所蔵されていた絵画の目録と解説書。宣和２年（1120）ごろ成る。20巻。
●『路史』南宋・羅泌（字は長源）撰。乾道６年（1170）に成る。主として中国伝説時代の史事を論述。47巻。
●『膳夫録』宋（北宋末～南宋）・鄭望（之）撰。１巻。『重較説郛』所収。
●『石林詩話』宋（北宋末～南宋）・葉夢得（1077～1148）撰。石林は葉夢得の号（石林居士）。３巻、１巻。
●『水雲録』宋・葉夢得撰。李時珍撰『本草綱目』序例「引拠古今経史百家書目」による。巻数未詳。
●『東京夢華録』南宋初・孟元老撰。北宋の都汴京（河南省開封市）の都市繁盛記。北宋最後の天子徽宗朝（12世紀初頭）の状況を描写する。紹興17年（1147）の自序。10巻。略称は『夢華録』。
●『類説』南宋初・曾慥（字端伯、？～1155）撰。漢魏から宋に至る小説・筆記、約260種の書物を摘録する。紹興６年（1136）の自序。紹興10年（1140）初刻。60巻。明天啓６年（1626）刊本あり。
●『提要録』撰者未詳。宋代の作か。南宋末・陳元靚撰『歳時広記』（経伝・野史・異書・小説など

から歳時資料を広く集録した歳時記。13世紀半ばに完成）に引かれる。

●『野客叢書』南宋・王楙（字勉夫、号野客、1151～1213）撰。典籍（経史）の異同を考証し、文人の逸話を多く記した学術筆記。慶元元年（1195）の自序。嘉泰２年（1202）の自記。30巻。承応２年（1653）の和刻本あり。

●『菊譜』南宋・范成大（字致能［一に至能に作る］、号石湖居士、1126～1193）撰。『范村菊譜』『石湖菊譜』ともいう。范村（彼自身の花園の名）に植えた36種の菊を記録する。淳熙13年（1186）の作。１巻。

●『梅譜』南宋・范成大撰。呉中（蘇州）の梅の全品種を入手して范村に植えたことを記念する梅の記録。『范村梅譜』ともいう。１巻。

●『天彭牡丹譜』南宋・陸游（1125～1209）撰。天彭は蜀（四川省）の牡丹の産地（成都の西北）。淳熙５年（1178）、出遊して作る。陸游『渭南文集』巻42や『重較説郛』などに収める。

●『金漳蘭譜』南宋・趙時庚撰。紹定６年（1233）の自序。１巻。『重較説郛』などに所収。福建の漳州の蘭は有名であった。

●『百菊集譜』南宋・史鑄（字顔甫、号愚斎）撰。淳祐２年（1242）に成り、４年後、胡譜を補入する。諸家の菊譜と他書に載る菊の記事を集め、それに自撰の新譜を加えた書。６巻。

●『錦繡万花谷』撰者未詳。南宋時代に編纂された類書。明・秦汴は嘉靖15年（1536）、前集、後集、続集の各40巻を刊行。後に別集30巻を刊行する。明代に流布した。前集に自序（淳熙15年［1188］）あり、後集以下は後人の増補・続輯である。

●『山堂先生群書考索』南宋・章如愚（字俊卿、号山堂）撰。前集66巻、後集65巻、続集56巻、別集25巻。科挙対策用に出版された類書。『山堂考索』『群書考索』ともいう。章如愚は慶元年間（1195～1200）の進士。

●『唐宋白孔六帖』唐・白居易原輯、宋・孔伝続輯。南宋の初め、白居易撰『白氏六帖（事類集）』の続編として孔伝撰『六帖新書』（孔氏六帖）が作られ、遅くとも南宋末には合刻された。詩文作成に有用な故事成語を、部類分けして集録する類書。100巻。略称は『白孔六帖』。『六帖』ともいう。

●『（新編）古今事文類聚』南宋・祝穆撰。前集60巻、後集50巻、続集28巻、別集32巻。淳祐６年（1246）の自序あり。群書要語・古今事実・古今文章などから成る類書。さらに元・富大用撰の新集36巻、外集15巻や、元・祝淵撰の遺集15巻が付される。目録６巻。元明時代広く流布した。寛文６年（1666）の和刻本あり。236巻。略称は『事文類聚』。

●『古今合璧事類備要』南宋・謝維新撰。類書。前集69巻、後集81巻、続集56巻。南宋の宝祐５年（1257）の自序あり。のち南宋・虞載が別集94巻、外集66巻を編纂して増補した。全366巻。略称は『事類合璧』『古今事類合璧』。明嘉靖35年（1556）序刊などあり。『莱草』には、別集中の各項目の初めに置かれた「格物総論」（格物論）が頻用される。

●『（京本音釈註解）書言故事大全』南宋末・胡継宗の編、明・陳玩直の解。252類12集に分け、各標題ごとに出典を引用して注解を施した故事熟語解説集。類書。12巻。正保３年（1646）の和刻本あ

り。略称は『書言故事』。江戸時代広く流布した。

●『続博物志』南宋・李石（字知幾、生没年未詳）撰。張華『博物志』の続編。10巻。明弘治刻本では『博物志』と合刻する。和刻本にも２書の合刻本あり。

●『韻語陽秋』南宋・葛立方（字常之、？～1164）撰。20巻。漢魏から宋に及ぶ諸家の詩を論評した大部の詩話。晩年の隆興元年（1163）に成る。『葛立方詩話』などともいう。乾道年間（1165～73）刊本などあり。

●『臥遊録』南宋・呂祖謙（1137～1181）撰。１巻。『重較説郛』所収。

●『朱子語類』南宋の黎靖徳編。南宋の儒学者朱熹が門人たちとやりとりした問答を記録した書。140巻。咸淳６年（1270）刊など。

●『翻訳名義集』南宋初・法雲（1087～1158）撰。紹興13年（1143）の成立。仏典中に記される梵名音写語を採取して漢訳し、64項目のもとにまとめた仏教辞書。７巻。

●『仏祖統紀』南宋・志磐撰。釈迦から宋に到る高僧の事跡を、中国の天台宗の立場から紀伝体で編纂した仏教史書。咸淳５年（1269）に成る。54巻。志磐は天台宗の僧侶。

●『大蔵一覧』宋・陳実撰。大蔵経の要文を抽出して、内容分類した類書。10巻。『大蔵一覧集』ともいう。南宋初の紹興27年（1157）の序あり。撰者の陳実を、もと明代の人と誤る。

●『開宝本草』北宋の馬志・劉翰ら奉勅撰。20巻、目録１巻。開宝６年（973）、唐の『新修本草』を増訂した『開宝新詳定本草』が成り、翌年、補訂を加えた『開宝重定本草』が完成した。『本草綱目』等所引。

●『日華子諸家本草』北宋・大明（号は日華子）撰。20巻。通称は『日華子』『日華本草』。開宝年間（968～976）の作という。

●『嘉祐補注本草』（嘉祐補注神農本草）北宋の掌禹錫（990～1068）・林億・蘇頌ら奉勅撰。『開宝本草』を校訂し、新注と新薬を増添する。20巻、目録１巻。嘉祐６年（1061）刊行。通称は『嘉祐本草』。

●『図経本草』北宋の蘇頌（1020～1101）・掌禹錫ら奉勅撰。20巻、目録１巻。嘉祐７年（1062）刊。『本草図経』、『図経』ともいう。『本草綱目』等所引。『蘇頌図経』ともいう。

●『証類本草』北宋・唐慎微撰。『経史証類大観本草』（北宋の艾晟が唐慎微撰『経史証類備急本草』【『嘉祐本草』と『図経本草』を合わせて増補した書。未刊。31巻目録１巻。唐慎微は蜀（四川省）の医者】を校訂し、陳承の説を加えて刊行。徽宗の大観２年［1108］、孫覿刊。31巻目録１巻。通称は『大観本草』）、『政和新修経史証類備用本草』（曹孝忠らが徽宗の詔を受けて『大観本草』を校訂して作る。30巻目録１巻。徽宗の政和６年［1116］に成る。靖康の変に際し、金軍に持ち去られ、南宋には伝わらなかった。通称は『政和本草』）などの総称。『神農本草』以来の正統本草であり、本草と図経が合わさって、明代の後期、李時珍撰『本草綱目』が出現するまで中国本草の根幹となる。

●『本草衍義』北宋末・寇宗奭撰。政和６年（1116）に成り、３年後刊行された。20巻。『大観本草』と合わせて出版。『本草広義』が原名。慶元元年（1195）重刊したとき、寧宗の諱（擴）を避けて、広を「衍」に改めたものという。『本草綱目』等所引。

元　代

●『夢粱録』元・呉自牧撰。孟元老『東京夢華録』に倣って作った、南宋の都臨安（浙江省杭州市）の都市繁盛記 。元の元統２年（1334）の自序あり。20巻。呉自牧は銭塘（杭州市）の人。

●『居家必用事類全集』撰者未詳（元代の人の作）。人倫・社会から家庭生活に至る諸方面の指導書（一種の家庭百科全書）。元代の日用類書の代表的な書物。略称は『居家必用』。明嘉靖39年（1560）田汝成序刊など。寛文13年（1673）の和刻本あり。

●『事林広記』（新編群書類要事林広記・新編纂図増類群書類要事林広記）南宋末・元初、陳元靚撰。甲～癸の10集94巻。甲集12巻、乙集４巻、丙集５巻、丁～壬集各10巻、癸集13巻。元・明時代の類書の中で、最も流布した類書の一つ。内容も変化・増加した。元禄12年（1699）の和刻本あり。

●『（新編）事文類聚翰墨大全』元・劉応李編。甲集12巻、乙集９巻、丙・丁・戊集各５巻、己集７巻、庚集24巻、辛集10巻、壬集12巻、癸集11巻、后甲集８巻、后乙集３巻、后丙集６巻、后丁集８巻、后戊集９巻。明正統11年（1446）刊など。詩賦詞藻関係の類書で、『（新編）事文類聚翰墨全書』ともいう。

●『農書』元・王禎（字伯善、1271～1368）撰。農桑通訣・農器図譜・穀譜から成る。皇慶２年（1313）の自序。大徳８年（1304）の「抄白」あり。 36巻、22巻。明嘉靖９年（1530）刊、万暦45年（1617）序刊などあり。

●『三元参賛延寿書』元・李鵬飛（号は九華澄心老人）撰。５巻。通称は『延寿書』。 朝鮮正統３年（1438）刊本あり。

●『仏祖歴代通載』元・念常（1282～1343 ？）撰。元の元統元年（1333）までの中国仏教の編年史。『仏祖通載』ともいう。至正元年（1341）虞集の序、同４年の覚岸の序あり。22巻。

●『古文真宝』元初・黄堅編。前集（漢から南宋に到る古体詩を収録）10巻、後集（戦国時代から北宋に到る名文を収録）10巻。成立年代未詳。引用される前集には、『（魁本大字諸儒箋解）古文真宝』前集（宝永４年［1707］刊等、多種の和刻本）、榊原篁洲『古文真宝前集諺解大成』あり。

●『雲嶠類要』撰者未詳。元代の作か。明・陳耀文撰『天中記』（類書）に引かれる。

明　代

●『明十二家詩選』明・魏懋忠編。万暦24年（1596）序刊。

●『何大復集』明・何景明（字仲默、また大復　1483～1521）撰。何景明は古文辞前七子の一人。李夢陽とならび何李と並称された。４巻。

●『鄭少谷集』明・鄭善夫（字継之）撰。４巻。

●『性理大全』明・胡広（字光大）ら奉勅撰。70巻。永楽帝の勅命によって編纂、永楽13年（1415）に成る。程朱学の哲理思想を中心に宋儒の諸説を類編した宋学の百科全書。『五経大全』『四書大全』と一緒に編集され、各地の学校に頒布された。

●『字彙』明・梅膺祚撰。部首と画引きを併用し、漢字検索の便が図られた実用的な字書。12巻

（集）。万暦43年（1615）に成る。中国で広く流布し、日本でも慶安元年（1648）以降翻刻されて、江戸中期まで学者必備の字書となる。

●『正字通』明末・張自烈（1564～1650）撰。『字彙』を改訂増補した博引傍証の字書。12集。清初の康熙年間以後、刊行された。

●『救荒本草』明初・周定王朱橚（明の太祖朱元璋の第５子、？～1425）撰。食用になる野生植物414種の識別と製法を図と解説によって伝える。永楽４年（1406）に成る。２巻。嘉靖４年（1525）、再版。嘉靖34年（1555）第３版の陸柬の序で、撰者名を朱橚の長子、周憲王（朱有燉）に誤って以来、李時珍『本草綱目』・徐光啓『農政全書』などに踏襲され、《周憲王救荒本草》として誤り伝えられた。 古今の農学を集大成した明末・徐光啓（1562～1633）撰『農政全書』巻46～59、荒政（凶年・飢饉を救うための政策）にも、『救荒本草』の全文を輯録する。

●『臞仙神隠書』明・寧献王朱権（明の太祖洪武帝の第17子、？～1448）撰。前半は養生および家政の術、後半は農業を主とした月令。臞仙は朱権の自号。『神隠』『臞仙神隠』『臞仙論』などともいう。４巻、２巻。

●『本草約言』明・薛己撰。４巻。本草中から必須のものを選び出して臨床用に編録した書。嘉靖年間（1522～1566）の作。

●『本草綱目』明・李時珍（字東壁、1518～1593）撰。先行の本草書を改編増補して、釈名（名称の由来や字義に関する諸家の説を記す）・集解（産地・形状・品質・鑑別などに関する説を集録）・気味・主治・修治・発明・附方・正誤の８項目に分けて記す本草学の大著。52巻、図２巻。万暦18年（1590）序刊、万暦31年（1603）刻本などがあり、日本でも寛永14年（1637）以降、３系統14種の和刻本が出現。特に釈名と集解の条は動植物の形態に関する記述に富み、江戸時代を通して、博物誌・自然科学等の土台となる。『栞草』が最も頻繁に引用する漢籍であり、漢代から宋代に到る種々の本草書は、若干の例外を除いて、すべて本書中に引くものを利用する。

●『丹鉛総録』明・楊慎（字用修、号は升庵、1488～1559）撰。門人の梁佐編刻。天文・地理から詩話・瑣語に到るまで26門に分けられた読書雑記録。27巻。明嘉靖33年（1554）序刊。

●『円機活法』撰者未詳。明代の作詩用類書。明・王世貞（1526～90）校。『（新刻重校増補）円機活法詩学全書』24巻、『（新刊校正増補）円機詩韻活法全書』14巻から成る。明暦２年（1656）等の和刻本あり。

●『唐類函』明・愈安期（字羨長、初名は策、字公臨）撰。類書。200巻、目録２巻。徐顕卿校、万暦31年（1603）序刊あり。

●『五雑組』明・謝肇淛（万暦30年［1602］の進士）撰。天・地・人・事・物の５部から成り、歳時関係の記事は天部に多い。『栞草』に引く『五雑俎』は、『五雑組』の誤り。寛文元年（1661）の和刻本あり。

●『三才図会』明・王圻纂集、王思義続集。一種の図説百科事典。時令以下は、子の思義の続集である。106巻。万暦37年（1609）序刊。

●『広韻藻』明・方夏（字南明）撰。詩賦詞藻関係の類書。６巻。崇禎15年（1642）刻本あり。
●『潜確居類書』明末・陳仁錫（字明卿）纂輯。大型の類書。120巻。崇禎（1628～44）刻本あり。略称は『潜確類書』。
●『花史左編』明・王路（字仲遵、号澹雲）撰。花に関する典故文献を集めた書。右編は伝わっていない。万暦45年（1617）に成り、全27巻の内、終わりの３巻は後人の補写。単に『花史』ともいう。24巻。
●『汝南圃史』明・周文華（字は含章）撰。園芸書。「圃史自序」にいう、周允斎（未詳）先生の輯する『花史』10巻を補訂した、と。周文華と周允斎は同姓、汝南は周氏の郡望である。周文華自身は蘇州の人。略称は『圃史』。江戸時代、しばしば『園史』と誤記された。12巻。万暦48年（1620）序刊。
●『名花譜』明・西湖居易主人（姓名は未詳）撰。序跋なし。不分巻。『居易堂名花譜』ともいう。
●『草花譜』明末・高濂（字深甫、号瑞南）撰。１巻。高濂撰『遵生八牋』巻16から収録した書。明・陶珽輯『説郛続』所収。
●『閩部疏』明・王世懋 撰。閩（福建省）の地理風土・物産・風俗などを記す。万暦13年（1585）の自序。不分巻。
●『紀暦撮要』明・婁元礼（字鶴天）撰。１巻。明末刊『新刻田家五行』（明・張師説ら校）などに付す。『田家五行紀暦撮要』ともいう。
●『農圃六書』明・周之璵（玉鳧先生）撰。明末の崇禎９年（1636）陳継受の序あり。６巻、４巻。撰者未詳『陶朱公治富奇書』とほぼ同じ内容である。清代、各種の版本あり。
●『八閩通誌』明・陳道修、明・黄仲昭纂輯。八閩（福建省）の地方志。明弘治２年（1489）に成る。87巻。弘治刊本あり。
●『西湖遊覧志』明・田汝成（字叔禾）撰。西湖（浙江省杭州市の名勝）付近の山水専志。24巻。嘉靖26年（1547）初刻。田汝成は銭塘（杭州）の人。『西湖遊覧志余』26巻もあり、さらに貴州や広西等に赴任し、『炎徼紀聞』なども著している。
●『江陰県志』（嘉靖江陰県志）明・趙錦修、明・張袞纂。江陰県（常州府に属す。江蘇省江陰市付近）の地方志。21巻、図１巻。明嘉靖27年（1548）序刊。
●『寧波府志』明・周希哲修、明・張時徹（字維静、1500～1577）ら撰。寧波府（浙江省）の地方志。明嘉靖39年（1560）序刊。42巻。
●『鎮江府志』（重修鎮江府志）明・王応麟修、明・王樵纂。鎮江府（江蘇省）の地方志。万暦24年（1596）刊。36巻。
●『閩書』明末・何喬遠撰。福建省全体の詳細な地方志。万暦44年（1616）に成る。のち補纂。154巻。崇禎２年（1629）の刻本あり。150・151巻のみを抜き出した和刻本『閩書南産志』２巻（都賀庭鐘の訓点傍訓、寛延４年［1751］刊）もある。
●『瑯琊代酔編』明・張鼎思（字睿父）撰。経史の考証の雑纂。40巻。延宝３年（1675）の和刻本あり。
●『月令広義』明・馮応京撰、明・戴任増釈。馮応京が撰し、戴任が続成した書。四季・月別に編纂

された、大型の歳時資料の専著。24巻（首１巻、統紀１巻）。馮応京の原書は、ただ１巻のみという。
●『皇明世説新語』明・李紹文（字は節之）撰。劉義慶撰『世説新語』に倣い、嘉靖・隆慶年間に至る明一代の逸事瑣語を分類して記す。８巻。明万暦刻本あり。『明世説新語』ともいう。和刻本あり。
●『開巻一笑』明・李贄（字卓吾、1527～1602）撰。屠隆校。さまざまな戯文を集めた書。２集14巻。『山中一夕話』ともいう。
●『重較説郛』（宛委山堂本）明末・陶珽重編。元末・明初の陶宗儀（？～1369）撰『説郛』（漢魏から宋元までの筆記小説を節略して収録。長く写本で伝わる）100巻を重輯増補して、広く流布した。120巻。いわゆる宛委山堂本である。陶珽は万暦38年（1610）の進士。本書を彼の重編とすることに関しては、頗る疑問視されている。

清　代

●『花鏡』清初・陳淏子（一名扶揺）撰。植物の栽培法を記す園芸専著。６巻。康熙27年（1688）の自序。『秘伝花鏡』ともいう。安永２年（1773）等の和刻本あり。
●『御定淵鑑類函』清・張英ら奉勅撰。明・愈安期撰『唐類函』を増補した類書。康熙49年（1710）に成る。450巻。
●『康熙字典』陳廷敬・張玉書ら奉勅撰。『字彙』『正字通』両書の増補改訂版。４万７千余字を収める。康熙55年（1716）に成り、初めは単に『字典』、のち『康熙字典』と呼ばれた。刊行後、権威ある字書として流布する。12集42巻。江戸中期の安永７年（1778）以降、和刻本が版を重ねた。
●『続茶経』清・陸廷燦（字秩昭、号漫亭）撰。陸羽撰『茶経』を補充した書。３巻、附録１巻。雍正13年（1735）の序あり。
●『欽定授時通考』清・蔣溥ら奉勅撰。乾隆２年（1737）、農事に関する記述を広く収集した、中国古農書の集大成書。大型の農書。78巻。
●『天啓或問』清・游藝（字子六）撰。問答体を用いた天文書。前集２巻。享保15年（1730）の和刻本あり。
●『諧声品字箋』清・虞徳升（字聞子）撰。字書と韻書を合わせた形の書。不分巻。通称は『品字箋』。

朝　鮮

●『東医宝鑑』（李朝）許浚奉勅撰。内景篇（内科）・外景篇（外科）・雑病篇（流行病・婦人科・小児科など）・湯液篇（薬方・薬材を網羅）・鍼灸篇に分けて述べた医学百科全書。万暦41年（1613）、朝鮮国王宣祖の命を受けて完成した、朝鮮医学の最高峰とされる。25巻。完成後、ほどなく日本にもたらされ、享保９年（1724）の和刻本がある。許浚にはまた、『諺解救急方』『諺解胎産集』などの著もある。
●『続蒙求分注』朝鮮（李朝）・柳希春（号眉巌、1513～1577）撰。朝鮮隆慶２年（1568）跋刊。４巻。『続蒙求』は、その略称。

主要参考文献

●清・紀昀（1724～1805）ら奉勅撰『四庫全書総目提要』。

●『内閣文庫漢籍分類目録』内閣文庫、1956年。

●酒井忠夫「明代の日用類書と庶民教育」　林友春編『近世中国教育史研究』（国土社、1958年）所収。

●守屋美都雄『中国古歳時記の研究―資料復元を中心として―』帝国書院、1963年。

●宮下三郎「『本草綱目』歴代諸家本草の人名索引」　『新注校定　国訳本草綱目』２の月報（春陽堂、1973年）

●上野益三『日本博物学史』平凡社、1973年。

●天野元之助『中国古農書考』龍溪書舎、1975年。

●王毓瑚編著『中国農学書録』農業出版社、1976年再版。

●長澤規矩也『和刻本漢籍分類目録』汲古書院、1976年。同『和刻本漢籍分類目録補正』汲古書院、1980年。

●岡西為人『本草概説』創元社、1977年。

●篠田統「中世食経考」「近世食経考」　同『中国食物史の研究』（八坂書房、1978年）所収。

●昌彼得『説郛考』文史哲出版社、1979年。

●藤堂明保編『学研漢和大字典（机上版）』学習研究社、1980年に収める「中国の名著」。

●小川環樹「中国の字書」　『中国の漢字』（中央公論社、1981年）所収。

●京都大学人文科学研究所編『京都大学人文科学研究所漢籍目録』同朋舎出版発売、1981年。

●鎌田茂雄編『中国仏教史辞典』東京堂出版、1981年。

●日原利国編『中国思想辞典』研文出版、1984年。

●矢島玄亮『日本国見在書目録―集証と研究―』汲古書院、1984年。

●黄葦『中国地方志詞典』黄山書社、1986年。

●『長澤規矩也著作集』第10巻（漢籍解題２）汲古書院、1987年。

●神田信夫・山根幸夫編『中国史籍解題辞典』燎原書店、1989年。

●趙国璋・潘樹広主編『文献学辞典』江西教育出版社、1991年。

●李剣国『唐五代志怪伝奇叙録』（上下２冊）南開大学出版社、1993年。

●山田慶児編『物のイメージ―本草と博物学への招待―』朝日新聞社、1994年。

●興膳宏・川合康三『隋書経籍志詳攷』汲古書院、1995年。

●山田慶児編『東アジアの本草と博物学の世界』（上下）思文閣出版、1995年。（2007年再版）

●吉川幸次郎「支那文献学大綱」「中国文献学大綱」　『吉川幸次郎遺稿集』第１巻（筑摩書房、1995年）所収。

●『月刊　しにか』1996年３月号、特集中国の古典辞書、大修館書店。

●周勛初『唐人筆記小説考索』江蘇古籍出版社、1996年。

●劉緯毅『漢唐方志輯佚』北京図書館出版社、1997年。

●佐藤武敏『中国の花譜』平凡社・東洋文庫、1997年。
●大島正二『中国言語学史　増訂版』汲古書院、1998年。
●鎌田茂雄ほか編『大蔵経全解説大事典』雄山閣出版、1998年。
●『月刊　しにか』1998年３月号、特集中国の百科全書、大修館書店。
●『集英社世界文学大事典』６冊、集英社、1996～1988年。
●芳村弘道『唐代の詩人と文献研究』中国芸文研究会発行、朋友書店発売、2007年。

【補　記】
今回の調査に当たっては、弘前大学図書館の参考調査カウンターを通して、四庫全書存目叢書等に収める影印本を他大学から借り出すとともに、主として国立公文書館（内閣文庫）で貴重書を閲覧した。また東北大学助教の大山岩根氏、早稲田大学助手の紺野達也氏から、調査の御協力を得た。併せて関係者各位に対して、お礼申し上げる。